



2015～16 年度
国際ロータリー会長
K. R. ラビンドラ

Weekly Report Niigata



世界へのプレゼントになろう

2015～16 年度 国際ロータリーのテーマ



2015～16 年度
新潟ロータリークラブ会長
竹石 松次

新潟 RC8 月第 2 例会 (2015.8.11) No.3099

(1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

(2) 竹石 松次会長挨拶

内藤久寛

安政六年 (1859) ～昭和二十年 (1945)

日本海に臨む景勝地柏崎市西山 (旧・刈羽郡石地町) で父・久之と母・貞子の長男として誕生した。

久寛が十歳の時、初代柏崎県知事四条隆平が、視察の途中、内藤家に立ち寄り、お茶の接待



に出た久寛を、東京に連れて帰り学問をさせるよう打診したものの、跡継ぎの長男であった為断った。久寛は、絶好の機会だと希望したが実現されなかった。しかし、このことが後日、血気盛んな青年の行動に火を灯すことになった。

明治四年 (1871)、柏崎県立柏崎黌 (こう) に入学、それまで村の寺小屋で学んでいた学業から、次第に世界の情勢や偉人伝に接し、産業振興、国土高揚の人材としての役割を自覚するようになった。だが、学校へ入って二年後、十五歳になった久寛は、突如、世紀の決断を家出という手段に出ることになった。

父から届ける様に預かった七円を懐に入れ、無断で九日間歩き続けて、黒船が寄港した横浜に向かった。横浜には、柏崎新道出身の金子虎吉を頼って事情を述べ、協力要請をするが断られる。そこで久寛は、父に宛て、無断で家を出たことを詫言、横浜の高島学校で学び、将来我が国の礎になることの一部始終を手紙に書いて懇願した。父、久之は、息子の強い意志を尊重し、晴れて公認の入学となった。学校では、アメリカ人ブラウンや西洋人教師四、五人もおり、全寮制で英語を学ぶことになった。

入学の翌年、暖房器具からの失火で校舎が全焼し、向学心に燃えた青年の夢はあえなく潰れてしまった。

体調を崩したこともあって、明治七年、久寛は故郷に戻り、今度は新潟英語学校へ入学するが、その年の暮れ、学校を断念し家業に専念する道を選択する。困窮する内藤家の家業再建を目指すため酒造業に専念、経費削減を図り、朝から晩まで一心不乱に働いた。

この時の様子は、自伝「春風秋雨録」で述べている。

「日に幾度びとなく通行人が我家の零落を弔しつゝ語り行くを聞き、痛恨胸を押し

て声を吞んで泣くこと屢々 (しばしば) であった。私はしみじみと貧乏ほど辛いものはない。又可厭 (いや) なものはないと感じた。何としても家道を恢復し、祖先の名を挙ぐるようにせねばならぬという考えが、其れ等の言葉を聞く毎に、常に雷の如く私の渾身全霊を顫 (ふる) はした。」

懷舊哀情訴向誰 仰天長息涙空垂
精神一到融金石 挽運興家在此時

明治十一年、二十歳になった久寛は、国学者の父を持つ広川佐賀子と結婚する。翌年には、新地方制度により戸長となり、その七年後には、県内では最年少の県会議員に選ばれている。

やがて、明治の中頃、地元尼瀬では石油が採掘され活況を呈していたが、石油業の発展に欠かせない近代的な経営方法を模索、それまでの山師的な鉱業からの脱出を模索していた。

アメリカでの石油精製業が、大資本の中で成功している様子を把握するため、知人であったニューヨーク総領事で長岡出身の鬼頭悌二郎に手紙を書き、石油事情の様子を依頼した。

鬼頭からは、石油がランプの時代から蒸気機関、車のエンジン駆動に欠かせない将来性のある産業で、既にアメリカでは、ロックフェラーのスタンダード・オイル・トラストがなど世界を席卷、する企業が誕生していることを知らせてきた。

そして、明治二十年 (1887) 帰国した鬼頭からアメリカの石油事情を聴く会が長岡で開かれた。この時には、実業家、政治家の山口権三郎、資産家の牧口庄三郎、長岡の第六十九国立銀行の岸宇吉など主立ちが集まった。

石油業の勢いは、アメリカに留まらず、ロシア、カナダ、ドイツなど世界中に広がっており、日本にとっても喫急の課題であった。

アメリカ駐在・農商務省参事官、鬼頭悌二郎の先進事情を聴いたことで、久寛、山口権三郎は、石油事業への起業を決意した。

事業化のための資金は、第六十九国立銀行 (現・北越銀行)、それに長岡出身で、大蔵官僚で、日本銀

行大阪支店長の外山脩造らの協力を得て、ここに殖産協会を設立する。

明治二十一年（1888）二月、「日本石油株式会社」、資本金十五万円、この時の晩餐会の席に一匹の蝙蝠が舞い込んだことから騒ぎとなったが、蝙蝠の「蝠」は「福」と、福運や福の神に繋がるとして、商標に「コウモリ」が採用された。

石油会社の発足、そして、わが国最初の海底掘削も久寛の手で実行された。尼瀬の海岸から五十メートルほど離れた浅瀬に石油が湧出していることから、海中に人工島を作り、三本の井戸を掘削、今日の海底掘削は柏崎が世界で先鞭をつけた。

海上での掘削と並行して、地上部での掘削技術も手掘りから機械掘りへの技術的な改良が加えられた。アメリカから綱索式掘削機械の導入で、価格が三万円、資本金の二割を必要とする高額な機械だが、導入に躊躇することはなかった。

機械の威力は想像以上で、手掘りの八十メートルから、一挙に百十メートル、最初の噴出、最終的には五百三十メートルまで掘進、石油量も日産で、石油缶算で四百四十個となり、十年間に総量で二万一千五百八十リットルの産出を記録している。

二号井、三号井、四号井と掘削され、会社の経営基盤も不動のものとなった。

「好事魔多し」の格言通り、明治三十三年（1900）、アメリカの石油会社・スタンダードが上越市の直江津に広大な土地を取得し、資本金一千万円の大資本で我が国の石油業界に乗り込んできた。

インターナショナル・オイル・カンパニーの進出で我が国の実業家は、国粋主義の観点から大同団結を促した。

しかし、久寛は、逆に進出に協力し事業の促進を促した。だが、外国資本の進出は、産油量の絶対的不足、コストパフォーマンスの観点から撤退を余儀なくされ、九年後には、反対に久寛に百七十万円で売却されることになった。

その後、内藤久寛は、衆議院議員、勅選貴族議員などを歴任、昭和二十年、八十五歳の波乱の「石油王」としての生涯を閉じた。

新潟県出雲崎町尼瀬には、石油記念碑と石油記念館が建設されている。

(3) ビジターの紹介

・高橋英樹ガバナー補佐、中川一広IM実行委員長、野沢慎吾君（新潟東RC）

(4) 高橋英樹ガバナー補佐、中川一広IM実行委員長ご挨拶

(5) ロータリーの友8月号の紹介(高橋義明広報副委員長)

(6) 委員会報告

・小飯田 澄雄職業奉仕委員長より「四つのテスト」について

(7) 各種ご寄付の発表

米山奨学会寄付発表(小林 敬直委員長)

樋熊 紀雄君 若杉 武君

青少年育成基金寄付発表(小林 悟委員長)

徳山 啓聖君

(8) ニコニコボックス紹介(千田 英継副委員長)

・新潟東RC 高橋 康隆 英樹君 ガバナー補佐として1年間宜しくお願いします。

・新潟東RC 中川 一広君 高橋 英樹ガバナー補佐のお供でIMのPRにお伺いしました。皆様の参加で素晴らしいIMになることを喜んでいます。

・敦井栄一君、小林敬直君、高橋秀松君、佐藤紳一君 新潟まつり無事終わりました。ありがとうございました。

・若槻 良宏君結婚記念日のお花が届きました。妻は、ロータリークラブの皆様にくれぐれもよろしくと申しておりました。どうもありがとうございました。

(9) 幹事報告 なし

(10) 会員スピーチ「ロータリー国際大会に参加して」

樋熊 紀雄副会長事

(11) 本日の出席率 70.21 %

会員数97名（出席免除会員 9名）

出席者66名（出席免除会員6名を含む）

(2週間前メーク後 86.82 %)

次回例会は9月1日

卓話「ボイストレーニングで自己啓発（仮題）」

ab unaste' iia 相田 朋子氏

を予定しております。

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>